

インフラ施策を転換し、未来を考える



NIPPON
防災
資産

表紙の解説

防災伝承に資する地域の活動

表紙は、新潟県関川村で毎年8月に開催される「大したもん蛇まつり」のメインイベントである大蛇パレードの写真である。

大蛇パレードで牽かれる大蛇は、昭和42年8月28日に同地域で起こり、多くの犠牲者を出した羽越水害の惨事を後世に残す思いを含め、羽越水害の発生日にちなんで全長82.8mとしている。また、この祭りは地域の防災教育にもテーマとして取り上げられており、そういった取り組みの結果により、村民の4人に3人は羽越水害の発生日を知っているなど、災害の自分事化につながる防災伝承に役立っている。



写真1 大したもん蛇まつりの大蛇（写真提供：関川村）

連動した国の動向

内閣府と国土交通省では、こういった地域の取り組みをインフラ施策の一部と認識し、ハード整備を補完する防災伝承の取り組みを「NIPPON防災資産」として認定する制度を令和6年5月に創設した。第1回の認定では、大したもん蛇まつりを含む計22の地域の取り組み等が認定されている（図1、図2）。

防災資産に関するJICEの取り組みは、本レポートの研究報告をご覧ください。

インフラ観を転換し、未来につなぐ

堤防などのハード施設だけをインフラと捉えるのではなく、「大したもん蛇まつり」のような地域の防災伝承のための活動も、地域のインフラだと捉えるようなインフラ観の転換が必要である。

防災伝承と治水施設整備が両輪となることで、想定外の水害に対する地域のレジリエンス力を高めることが可能となるなど、さらなる効果が期待できる。

インフラ観を転換し、未来につなげていく政策を進めていく必要がある。



図1 NIPPON防災資産ロゴマーク（出典：内閣府・国土交通省）

国土交通省 NIPPON 防災資産 特設ページ

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/bousai-shisan/index.html>

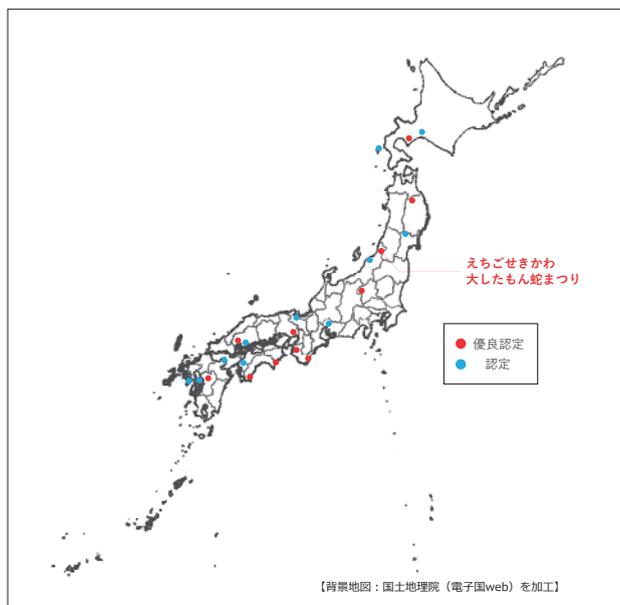


図2 第1回「NIPPON防災資産」認定案件の位置